

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590200115		
法人名	有限会社SKY-Tカンパニー		
事業所名	グループホームつぼみ		
所在地	彦根市鳥居本町1455-7		
自己評価作成日	平成28年2月25日	評価結果市町村受理日	平成28年5月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店 2階		
訪問調査日	平成28年4月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様または家族様の気持ちを教えていただき 生活しやすい環境作りを目指しています。また、ご利用者様同士も仲良く 家庭的な雰囲気の中穏やかに過ごしておられます。食事は三食手作りで、また季節に応じた野菜を小さな畑で利用者さんと育てています。去年はほうれん草が山のようにでき、ご近所におすそ分けしました。 また、年末には利用者様と餅つきを行いみんなでおいしく頂きました。医療面では 主治医との連絡が取れやすく 何かにつけ相談をさせていただいています。理念でもある「家庭的な雰囲気」を大切に毎日楽しく過ごしています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

鳥居本宿の中山道から少し脇に入った所に開設から6年を経過した当事業所がある。「その人の尊厳を保ち、その人らしさを大切に支援し、生きる希望と…、ご家族や地域との連携を図る。」を理念に掲げている。その実践に向け、職員は利用者の思いに副って、ペースを大切にしながら自立への手伝いと少しでも家族の負担を軽くする為、ケアに取り組んでいる。夏祭りや餅つき大会等の行事を開催し家族は勿論、地域との交流を図っている。運営推進会議は民生委員や駐在所の警察官が構成員として参加し、意見を述べ合うと共に、地域との連携の役割も果たしている。職員は利用者や寄り添い自然な形で肩や背中に手を添えたり、手を触れ合ってスキンシップを図っている。比較的自立度の高い利用者は安心し、公文学習やリズム体操を楽しみ、時々の身近な話題でお喋りに興じている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	タイムカード横の見やすい所に貼られており、毎日心がけて仕事をしている。家庭的な雰囲気大切にすることは、契約時家族にも伝えている。	「地域の中で家庭の雰囲気、心安らぐ生活を送れる様、尊敬をもってケアに努める」と理念を展開し、職員は理念に適ったケアであるかをミーティング等で振り返りながら実践にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	窓の外を通過っておられたり、散歩で出たりするときは声をかけて頂いている。地域の避難訓練に参加させて頂いた。	自治会へ加入は未だ受け入れられていないが、事業所の夏祭りはチラシを作り、近隣に利用者とポスティングし100余名の参加者を得て交流を図った。小学校の運動会、地域の文化祭には招待を受け参加している。	地域と更なる交流増す活動につなげる取り組みを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の避難訓練に参加させて頂いたことで、グループホームの利用者様であるという認識を持って頂けたと思う		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員や地域包括の参加で実施している。避難訓練が毎回施設でのみ行っていて地域の方の参加が難しいと報告したら、地域の避難訓練に参加できるように手配くださった。	会議は駐在所の警察官等の参加で2ヶ月毎に開催している。事業所の取り組みの報告や地域と交流の進め方、防犯等の課題について協議している。協議で学区内広報紙に事業所の行事掲載(夏祭り)が実現した。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で、毎回地域包括支援センターの職員の参加がある。現状等積極的に伝え情報を共有している	地域包括支援センター職員の運営推進会議への参加の他、事業所の実情を積極的に伝え、情報を共有している。徘徊時の緊急通報の登録や利用者家族の支援について福祉課に相談し助言を得ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていない。また施錠も行っていない。万一の徘徊行動に備え、「徘徊配信依頼」票を発行し、行政や駐在所と連携を取っている。また地区公民館職員にも、帰宅願望の利用者対応に協力を得ている。	虐待防止や身体拘束についての内外の研修に参加し共有を図っている。スピーチロックも都度、ミーティングで話し合い意識合っている。利用者の外出行動の原因と予兆を把握し見守りや外出行動を一緒にしている。更に、気分転換を図る工夫をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間で話し合い、あってはならない事を周知徹底したい		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後継人制度を利用されている方がおられ、理解されている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、家族様に説明し、疑問に思われるところは、しっかりと納得されるまで話し合っている。解約についても契約時に説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来られた特に、情報を交換している。家族とSNSを利用し日常の様子をやり取りしている	家族の来訪時、意見要望を聞くチャンスと捉え、必ず職員が対応して傾聴に努めている。管理者が家族の要望でスマートフォンのラインを活用し、日常の様子を発信し、誕生会の写真や動画を送信し喜ばれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議をもうけ意見を聞いている。それにより必要な備品があれば購入している	管理者は職員と同じシフト時、日常的に意見や提案を言い易い雰囲気作りをして聞き取り、話し合っている。毎年、運営者が職員と個人面談を行い、意見や意向を聞き運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人の意見を聞く時間を設けることにより仕事への思いや考えを聞き施設運営の向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修等は個々に必要とされる研修に参加している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	彦愛犬のグル-プホーム「いっぺん集まってみよう会」に参加している。職員だけでなく利用者さん同志の交流もある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に利用者様家族様にお会いし現在までの生活や今後の課題など不安に思っておられる事を傾聴し、また見学に来ていただいたり、安心してただけるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みや見学に来られた際、ゆっくりと時間をかけ家族様の思いを聞き施設についても納得していただけるように心がけている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人や家族の希望を出来るだけ受け入れ、ご本人の居心地のよい環境を考えながらケアプランを作成している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご自分の出来る事はしていただき、人生の先輩としてたくさんの事を教えて頂きながら良い環境の下、生活できるように心がけている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何かあれば状況の報告を常に行い、家族との連絡を密にとっている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	別のグループホームの利用者のご飯を共にしたことがある。また、面会に来られた場合は、居室にてゆっくり話が出来るように配慮している	知人等の来訪時は居室でゆっくりと話が出来るようにし、次回も訪問し易い配慮をしている。買物、受診等の送迎時、馴染みの場所へ迂回し、関係が途切れないよう支援している。電話や手紙の遣り取りを手伝っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の状況により、その日の座席を決める時がある。雰囲気が悪くなりそうときは職員が間に入っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移られても、面会に行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望、意向を把握し職員同士で話し合いを行い、出来る限り本人の希望に添えるように努力している	入浴時や個別外出時の会話から、利用者の本音を把握し、意向に沿えるように経過表や申し送りノートに記録し、実践に活かしている。利用者の仕草、表情、言葉掛けに対する返答等も意向の把握に役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様が分かる範囲で利用者様の年代別生活が分かるように用紙に記入していただき、理解できるようにつとめている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタル測定を行い健康状態を観察している。また経過表に変化を書き、職員みんなで共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にカンファレンスを行い状態を把握しご本人や家族様に合った介護計画書を作成している。状態に異常があれば、その都度、計画を見直している	利用者、家族の思いや情報を汲み入れ職員で話し合い、介護計画を作成している。カンファレンス、モニタリングを実施し、状態変化が無くても3ヶ月毎に計画の見直しを行い本人、家族に説明し承認を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に支援経過の記録を記入している。また、申し送りノートを活用し内容は職員全員が確認できる。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の季節の服や身の回りのものは家族がいけない時は一緒に行っている。また、散髪は地域の美容室に依頼している。馴染の所へ出掛けたりもする時がある		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校の運動会に招待して頂き、利用者様も喜んでおられた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	従来のかかりつけから、家族の希望により協力医に切り替えている。受診は看護師と職員が同行し報告している。結果は家族に報告し共有している。急病の時は、協力医に連絡をとり指示をうけ対応している	家族の希望に応じ全員が従来のかかりつけ医を協力医に切り替えて、月1回往診を受けている。通院はすべて事業所が対応し看護師が同行している。受診にあたり診療状況報告表を提示し連携を保っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは情報、気づきを相談、共有し適切な対応を出来るように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供は行っている。また入院中も様子を見に行っている。退院時は、カンファレンスを行っていただき参加し、今後の対応について相談して。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期については、家族の意向を大切にしている。医療行為が伴う終末期対応が出来ない旨伝え、書面にて家族様の意思表示を頂いている。重度化の度、同意書を交わしている。	医療連携体制加算を採用し、重度化や終末期の対応指針書を作成し、契約時に説明し同意書を交わしている。終末期の段階で「看取り介護に関する同意書」を家族と交わし事業所としてぎりぎりまでケアに当たっている。係る研修は受講しているが看取りケアの経験者は少なく、不安を持つ職員もいる。	現在、看取り対応には応じていないが、職員の終末期対応に備えた教育を実施し職員の技量向上を図る事を期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に話し合い、看護師に相談している。緊急時は施設長が常時待機しているので、対応できている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回、事業所の消防訓練は出来ている。地域の防災訓練に参加した。地区指定避難場所への避難にも参加した	平成27年度は避難、誘導訓練、消火訓練は消防署の指導の下で年1回、実施した。訓練の案内チラシをポスティングしているが地域住民の参加や協力体制はまだ整っていない。	訓練は運営規定に則って年2回実施し、且つ夜間想定訓練も実施する事を望む。 訓練には地域の参加の下、実現する事を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇については入社時に説明したり研修を行っている。プライバシーに関わる事は、出来るだけ居室等個別に対応している	人権やプライバシー等尊厳に係る研修の受講や、会議で全職員が周知するよう話し合っている。利用者に尊敬の念を持ち誇りを損ねない様ゆったり、おだやかな声掛けや誘導を意識しケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何に悩んでいるのか、どうしたいのか、随時話を聞いている。家に電話をかけたい時はかけて頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の時間は決まっているが、ほぼ自由にされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	皆様ご自分の好きな服を選んでおられる。髭や髪が伸びれば支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理・盛り付け・食器洗い、後片付け等手伝って貰っている。食事は三食、手作りでそれぞれある程度個別に対応させて頂いている。職員も一緒に食事を楽しんでいる。	利用者が一番楽しみにしている食事は、三食及びおやつも手作りで、担当職員は利用者一人ひとりの好みを把握し、一汁三菜、色彩豊富に見た目や味に拘りを持って調理している。美味しく、食事を楽しんで貰えるよう旬の食材献立を工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量については毎日記録している。食事が進まない時は代替え品を用意している。水分は出来るだけ飲んで頂くように声掛けしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分で出来る方は声掛けを行いそうでない方は介助している。就寝前は義歯を外し洗浄剤につけている。歯の状態が悪い方は歯科受診されている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、ほぼ全員リハビリパンツを利用している。出来るだけトイレでの排泄を目指し、ほぼ全員がトイレでの自立排泄が可能である。	排泄記録から各人のパターンを把握し、トイレでの排泄に向け声掛けや誘導に努めている。便座の高さを変えて利用者が使い易いトイレの工夫をしている。体調により夜間のみポータブルで対応をする事もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操を行い自然に行えるようにしている。また、水分補給等進めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一応は決まっているが、本人の希望により入浴される。個室でゆっくり入られている。出来るだけ同性介助でおこなっている。同性介助に心掛けている。	入浴は隔日に、14時～17時頃の間で希望に合わせて行っている。風呂は毎日用意している。入浴剤で色や香りを楽しみながら職員とお喋りしてゆっくり入って貰える様配慮している。脱衣所はヒートショック対策をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者さんの習慣や体調に合わせて休んでおられる。また、天気の良い日は布団を干し、気持ちよく休んでいただいている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師だけでなく、職員と二重チェックを行っている。薬が追加や変更になった場合は申し送りを行い様子を観察している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単なレクや家事を積極的に手伝って下さる。また、日めくりカレンダーは、めくる利用者が決まっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員そろっての外出は無理だが、順番に行っている。天候の良い日は近所を散歩したり畑の手入れを行っている	利用者は日常的に近くを散歩したり、畑、花壇の手入れをし、肥料等の買い物や食材の買い出しに同行している。年数回実施の外出は花見、紅葉狩り、初詣等全員揃っての外出は困難になってきたが、個別に支援し職員共々気分転換を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額に関しては預かっている利用者様がいる。必要に応じ買い物が出来るように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望どうり行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来る限り家庭の様な雰囲気を保ちながら生活できるように工夫している。共用空間の一部に掘炬燵を備えた畳コーナーを設けたり、独りになれるコーナーを備え、利用者は其々の場所で寛いで貰っている。	リビングは明るく、厨房は対面キッチンとし調理の包丁の心地良い音がひびいている。季節毎の利用者の貼り絵作品を飾っている。食卓の配置を定期的に模様替えし、新鮮な雰囲気を作り出している。共用空間は掃除を利用者と一緒に行い、清潔保持に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれ好きな場所でゆっくりされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と話し合い、使い慣れたものを持参していただいている。位牌や掛け軸を置いておかれる利用者もおられる	馴染みの品や位牌を持ち込み、家族の写真を飾り、落ち着いて過ごせる様工夫している。利用者の得手や習慣も考慮し、空調の風も直接当たらない様にベッドの位置を配慮する等、居心地よく過ごせる配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋が分かるように表札を付けている。トイレにはと言えのマークがついている。各部屋に洗面台があり、整容出来るようになっている		

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	自治会に加入していないので、地域との連携が取れにくい状況である。	◎地域の方との交流が出来るようにする。	行事等で地域の方が参加して頂ける様、事前に案内チラシ等で近隣にポスティングしたり、学区たよりに掲載して貰ったりしてお知らせする。地域の祭りや文化祭などは出来るだけ利用者さんと参加し、地域と馴染みの関係を構築する	12ヶ月
2	33	重度化、終末期については家族の意向に出来るだけ添えるように努力はしているが、看取りケアの経験者が少なく、不安を感じる職員もいる	◎重度化・終末期ケアに向けての支援体制を整える。	職員の教育(内外の研修に参加)を実施し、職員の不安解消の為に体制作りに取り組む。	12ヶ月
3	35	定期的に消防訓練は行っているが、地域住民の参加はない	◎近隣住民の参加を得る。	運営推進会議の日に実施し、地域代表等の参加を得て地域住民の方に避難訓練の必要性を理解していただく	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。